

平成 28 年 2 月 6 日

平成 27 年度 大阪府立三島高等学校 第 3 回 学校協議会 議事録

1 実施日 平成 28 年 2 月 6 日(土) 10:00～12:15

2 出席者

(1) 協議会委員 (アイウエオ順)

柏原 泰和 (川西地区青少年健全育成協議会長)

芝井 敬司 (関西大学教授) 協議会長

高島 敏彦 (高槻市立郡家小学校長)

北堂 薫 (高槻市立第二中学校長)

宮坂 政宏 (週刊教育 Pro 主幹) 協議会副長

武藤 和子 (三島高等学校 PTA 会長)

(2) 校長

(3) 事務局

山崎 一郎 教頭、 藤岡 通夫 事務長、 金田 修治 首席(欠席)、 尾崎 聡 首席

3 議題

(1) 平成 27 年度の学校経営計画及び学校評価について

(2) 平成 27 年度の学校教育自己診断について

(3) 平成 28 年度の学校経営の基本骨子(案)について

4 委員からの指摘提言

(1) 平成 27 年度の学校経営計画及び学校評価について

①授業力向上について

- ・ 定期考査について、担当者ごとに問題が異なることの理解は困難である。

問題の内容次第で生徒間で有利、不利が生じるのは公平公正でない。担当者間で点数の調整がされるらしいが納得できるものではない。個人の教員の学習活動としてではなく、ぜひとも統一し、組織的な学習指導をする必要がある。今後 P T A として学校に考査課題統一化の要望書を出すこともありうる。

- ・ 授業改善は ICT 活用やアクティブラーニング等の改革も必要。

②危機管理について

- ・ 高校生には助ける立場での活躍が期待されているのでそのための訓練や指導も必要である。

- ・ 広域的災害の避難場所として行政機関等と連携して、救援物資の保管や機材などの

定期的なメンテナンスが必要である。

(2) 平成 27 年度の学校教育自己診断について

- ・自己診断アンケートの小・中・高の設問内容が同じで、この内容で高校教育の評価が適切にできるかは疑問。学校評価として使うのではなく、学校改革の指標として使うのが有効である。
- ・子供から学校の様子が伝わってこないのが、ホームページに学校の取り組みをもっと掲載してもらいたい。
- ・アンケートの数値だけでは分析しにくい。主観的指標は期待度が高いと満足度が低くなるので、別の分析指標を持たなければならない。生徒の学年ごとの推移を調べるのがよいのでは。不満を持つ層は何を求めているのかを知るには、クロス分析も必要である。
- ・「学校生活についての先生の指導には納得できる」について評価は記述内容にも現れているように、生徒・保護者に説明をもっと丁寧にする必要がある。その際、校風は頭髪だけで変わるものではないと、生徒に知らしめる機会として活用してはどうか。
- ・アンケート結果だけを捉えて行事を増やすと教師の負担も増えるので、内容に不備があるか周知が弱くて伝わっていないかを検討のうえ考えてもらいたい。
- ・教員の回答率を上げてもらいたい。

(3) 平成 28 年度の学校経営の基本骨子(案)について

- ・自主自律の中に生活習慣の確立と社会規範の遵守が入っているのは地域の盟主の高校としてふさわしい。
- ・ICT 整備をぜひとも進めてもらいたい。
- ・入学当初のオリエンテーションで中学と高校の差異を指導してくればありがたい。
- ・大学入試改革に対応できる学力をつけてもらいたい。
- ・行事の精選は、生徒につけたい力に沿った内容を考えて選んでもらいたい。
- ・ホームページには知りたいことと見たいことを捉えて、必要情報をしっかり流して欲しい。ホームページを通じて広報周知することにより、信頼を高めることができる。
- ・心の問題にも取り組んでもらいたい。